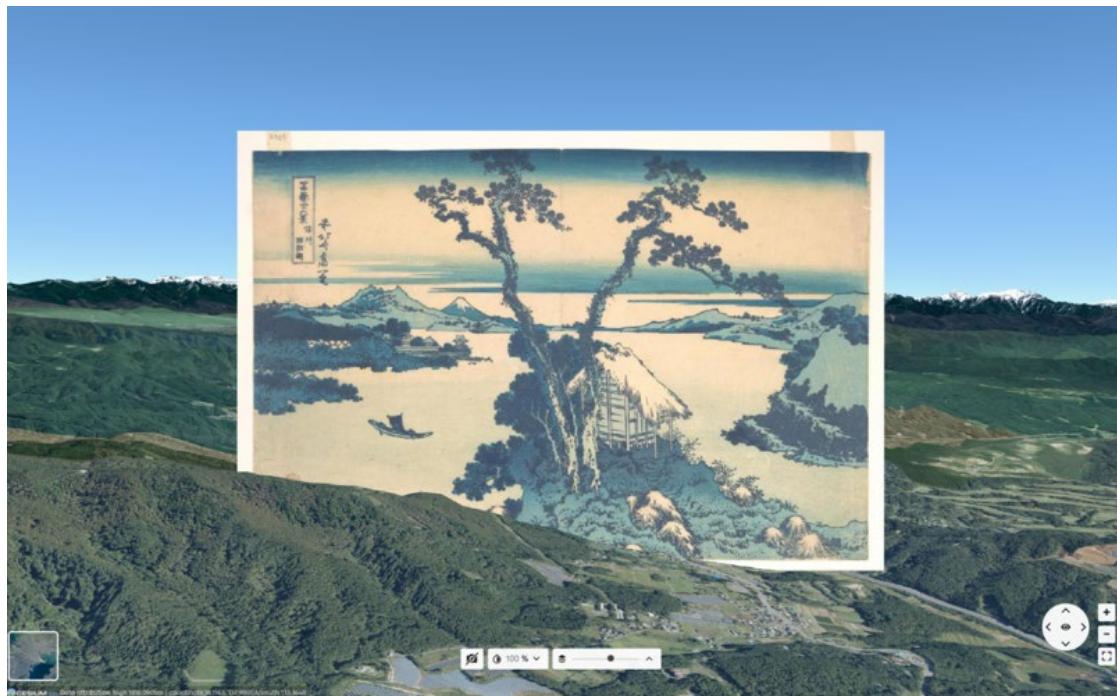


集合知を描く：市民科学プロジェクト ご案内

Drawing from the Crowd



プロジェクトについて

「集合知を描く」は、江戸時代の浮世絵に描かれた名所風景を探求する国際共同研究プロジェクトです。

日本財団ソーシャル・イノベーター・コラボレーション（NSIC）の助成を受け、チューリッヒ大学美術史学科東洋美術史講座との協力により開発されました。

本研究の重要性

浮世絵は、風景をありのままに写し取った記録ではありません。絵師たちは、芸術的な表現や商業的な事情、そして視覚的伝統に基づいて、一つひとつの風景を丁寧に描き上げました。実際の地形と創作された光景が一枚の作品の中で溶け合い、現実にはあり得ない視点から名所が描かれたこともあったのです。

より多くの人々が丁寧に観察し、知見を出し合うことで、当時の人々にとっての「当たり前の風景」が少しずつ見えてきます。私たちが知りたいのは、描かれた「場所」だけではありません。それが「当時どう見られていたか」なのです。

市民科学とは

市民科学（シチズン・サイエンス）とは、研究者だけでなく、一般の人々も学術研究に参加する取り組みです。一人ひとりの観察や気づきが、専門家の手では得られない重要な発見へと繋がります。

本プロジェクトでは、江戸時代の浮世絵に描かれた風景と現代の実際の地形を照らし合わせる作業に、皆様のお力添えをい頂くものです。

美術史の知識や日本語の読解力は必須ではありません。大切なのは、好奇心と、作品をじっくり観察する目だけです。

ご参加の方法

スイス連邦工科大学が開発したオンラインツール「Smapshot」を使います。ブラウザ上で近世の浮世絵と現代の3D地形モデルを見比べながら、絵師がどこに立ってこの風景を眺めていたのかを探っていきます。

所要時間：1作品あたり 15～30 分程度

手順：

1. 作品一覧から浮世絵を選ぶ
2. 描かれた風景の視点（どこから見た眺めなのか）を探す
3. 作品内の山並みや地形の輪郭を、現代の地形と重ね合わせる

必要な環境：

- Google Chrome または Microsoft Edge
- インターネット接続

もしうまく特定できなくても問題ありません。「この作品は位置を特定しにくい」という情報も、貴重な研究データになります。

参加するメリット

- 日本の美術や歴史、地理について学ぶことが出来る
- 学術研究に直接貢献できる
- 世界中の参加者と繋がることが出来る
- 研究成果に名前が記載される（希望者のみ）

リンク

- プロジェクト詳細
<https://landscapes.theprintlab.org>
- 参加する (Smapshot ツール)
<https://smapshot.heig-vd.ch/contribute/?owners=19>
- 作業の実例 (ケーススタディ)
https://docs.google.com/document/d/1L7O5tMp37jLTEAryeUKlki5N8v0qTrIXv9ugi_bIR0/view

収録作品について

現在、以下の機関が所蔵する作品を収録しています。

- ニューヨーク メトロポリタン美術館
- 国立国会図書館（ジャパンサーチ経由）
- 台東区生涯学習センター

今後、立命館大学アート・リサーチセンターの所蔵作品も順次追加していく予定です。

研究チーム

- ステファニー・サンチ（チューリッヒ大学） プロジェクト統括
- ドリュー・リチャードソン（カリフォルニア大学サンタクラーズ校） 研究協力
- ヒマンシュ・パンダイ（Dignity in Difference） 技術開発
- 辻博仁（イースト・アングリア大学） 日本語翻訳・調査

お問い合わせ

ご不明な点やご意見がございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。

研究代表者：ステファニー・サンチ博士
チューリッヒ大学美術史学科 東洋美術史講座 博士研究員
連絡先：stephanie@theprintlab.org

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

© 2025 Drawing from the Crowd Project / ThePrintLab